

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年 3月 28日

事業所名 児童療育サポートセンターびこっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0		
	2	職員の配置数は適切である	5	0		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	施設内は刺激の統制、エリアを1対1で対応させるなど構造化している	車いすの人にとっては狭い
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		業務についてはその担当者の仕事という認識が強いいため、全職員が能動的に業務改善に関わっていくよう4月より人事を再体制する
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	全職員の研修受講一覧を作成している	職員によってばらつきがあるため、積極的に受講してもらえよう促してきた
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	2		アセスメントをとったままになってしまっていることもあるため、4月より支援内容を管理する担当者を配置する
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	2		支援内容が具体的でなく全員が統一した評価ができていないことがあるため、個々人のスキル構造のための所内研修、外部研修受講をより活発に実施していく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3	2		個々人で考え方のばらつきがあるため、より統一できるよう所内研修、ミーティングの頻度など支援の質の向上を目指す
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		個々人で考え方のばらつきがあるため、より統一できるよう所内研修、ミーティングの頻度など支援の質の向上を目指す
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		送迎の担当になると全員揃ってできないこともあるため、必ず伝達ができるよう4月より管理の担当者を配置する
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2		記録が検証や改善に役立っていない時があるため、4月より記録用紙を改定する
20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	1			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	5	プログラムとしては実施していないが、適宜お伝えしている。また今後家族会の中で取り入れていく予定	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	保護者の悩みに対してすぐに対応できず話し合いができていない時もあるため、保護者からの相談内容も把握できるよう担当者を配置する
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	R2.2.22より家族会を発足
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	5	お知らせは適宜書面にて行っているが、定期的なものはないため、今後HPやSNSを活用し情報発信に努めたい
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	行事を行っていないため招待する機会はないが、研修会を企画したり、民生委員に発達障害の講和をさせていただいたりしている

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1		予防接種の確認は行っていない。必要な場合は適宜確認を行っていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3		食事の提供がほぼないため、医師の指示書はない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	アクシデント・インシデント報告書を作成し法人内で回覧している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	虐待防止・権利擁護研修に参加し法人内で情報共有している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0		口頭の説明のみだったため、今年度より支援計画書へ追記した